平成 29 年度 札幌市研究開発事業
研究課題　信頼される学校の創造　安全・安心な学校づくり

家庭・地域や関係機関との連携を基に、子どもが危険から自ら身を守ろうとする態度や能力を育む安全教育の推進

札幌市立幌北小学校　代表者　木村まどか

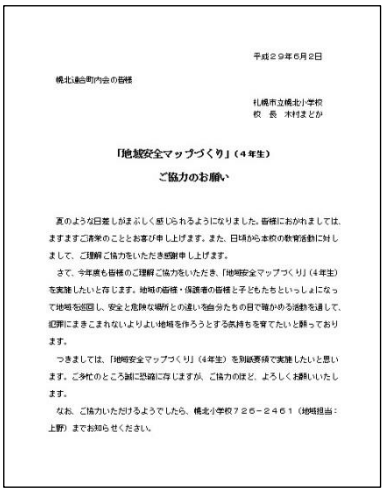
Ⅰ　研究実践を通して目指しているもの

開校８３年を迎えた本校は、地域に居住する卒業生も多く、多くの地域の方々に支えられている。

市内中心部に位置しているため、地下鉄駅も近く、多数の人々や車両が往来する地域であるが、子どもたちは地域の方々に見守られて登校している。

しかし近年、学校の近くで複数の凶悪犯罪が発生し、保護者による引き取り下校などを必要とする機会があるなど、保護者や地域の方々の安全に対する関心は年々、高くなっている。また、両親が共働きの世帯の増加や少子化などもあり、子ども一人一人が自ら危険から身を守ろうとする態度や能力を育むことが一層求められている。

そこで本校では、４年生を中心として家庭・地域や関係機関との連携により、安全マップの作成や防災アプリを活用した防災教室などの取組を通して、安全教育の具体的な推進についての研究を進めることとした。



平成２９年６月２日

桃北輪町内会の皆様

札幌市立桃北小学校
校　長　木村まどか

「地域安全マップづくり」（４年生）
ご協力のお願い

夏のような日差しがまぶしく感じられるようになりました。皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に対しまして、ご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今年度も皆様のご理解ご協力をいただき、「地域安全マップづくり」（４年生）を実施したいと存じます。地域の皆様・保護者の皆様と子どもたちといっしょになって地域を巡回し、安全と危険な場所との違いを自分たちの目で確かめる活動を通して、犯罪にまきこまれないよりよい地域を作ろうとする気持ちを育てたいと願っております。

つきましては、「地域安全マップづくり」（４年生）を別紙要領で実施したいと思います。ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、ご協力の度、よろしくお願いいたします。

なお、ご協力いただけるようでしたら、桃北小学校７２５－２４６１（地域担当：上野）までお知らせください。

Ⅱ　研究内容

（１）地域安全マップづくり

本校では、保護者や地域の方々にご協力いただき、例年「地域安全マップづくり」を４年生が行っている。今年度も保護者や地域の方々に広く協力を依頼し、１１のグループに分かれて子どもたちと一緒になって地域を巡回していただいた。

子どもたちは、現地調査で地域の方へのインタビューなども行うことで、安全と危険との違いを知り、分かったことを地域安全マップとしてまとめた。

子どもたちからは、次のような感想が聞かれており、自分たちの居住する地域の安全についての認識が深まっている。

- よく通るところだったけど知らない安全（危険？）がいっぱいあって、おどろきました。
- ふしぎに思ったことがあります。それは安全なところと危険なところが同じぐらいあったからです。

また今年度は、グループごとにまとめた地域安全マップを「幌北小校区安全マップ」として、校区北編（北１９条～２１条）と校区南編（北１５条～１８条）の２枚のポスターを作成した。

作成したポスターを全家庭に配布して全校的な取組とした。配布の際には、家庭内に掲示してもらい近所の危険（安全）箇所について子どもと話し合うなど、家庭でも安全・安心の意識を高めてほしいことを伝えるとともに、「通学路図」を配布して、危険箇所についての情報提供を呼び掛けたところ、保護者から複

数件の情報が寄せられ、以後の指導に生かしている。

また、地域の各関係機関等にも広く配布し、地域安全マップの掲示や地域の防犯についてあらためてお願いした。

（２）防災アプリを活用した防災安全教室

危機管理対策室と連携し、危機管理対策室にて開発した札幌市防災アプリを活用した防災安全教室を４年生で行った。授業づくりに際しては、「自分の身は自分で守る～自助」をテーマに複数回の打合せを行った。

前半１時間はグループごとにタブレット端末で防災アプリを操作して、安否確認や避難場所を確かめることなどを通して災害や災害が起こったらどうするかを学んだ。

また後半１時間は、防災アプリを一部使用しながら、校内で火災が発生したとして避難の際のシミュレーションを行った。日頃より避難訓練は実施しているが、それとは違い今回のシミュレーションでは、学級等のまとまりではなく基本的に一人で行うこと、また、防火扉を閉めたり火災により通行ができない箇所があったりと現実に近い想定で行うこととした。

以下に子どもが振り返りカードに書いた学習の感想を記載する。

> こう水であんなにも水が広がるのがびっくりしました。アプリを使うと便利でいいと思いました。もう一度家族といっしょに防災、災害について話合いたいです。
>
> 訓練をして思ったことは、一人じゃまよった時に意見を言えないし、いつものひなん訓練の道じゃ進めなかった時は、とってもこわくて、きっと本当にあったときよい判断ができないかもしれないので今知ってよかったです。でもきっと本当に火が出ていたらあわててしまったりしちゃうと思います。

他にも多くの子どもから、アプリを使ってみることで災害について知らなかったことが分かったといった感想や、落ち着いて避難することの大切さを学んだなどの感想が得られた。

Ⅲ　研究の成果と課題

本校では年５回の避難訓練や年１回の引き取り下校訓練を行っており、その際にも子どもたちに伝えていることではあるが、安全マップの作成や防災アプリを活用した防災教室などの取組を通して、「災害等を自分事として考える」「もしもの際には自分で考えて行動する」といった態度や能力を育むことにつながった。

今後も地域等とのつながりを大切にした取組を進めたいと考えており、その際、隣接する中学校との連携も視野に入れていきたい。また本研究は、４年生を中心とした取組をまとめたところであるが、発達の段階に合わせた効果的な安全教育の在り方を、今後も模索していく必要があると考えている。